

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【宮前中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「話すこと」「聞くこと」 数学「関数」「データの活用」 <指導上の課題> 基礎的・基本的な知識・技能が身につけている生徒と全くできていない生徒の差が大きい。反復や振り返りの時間を確保しながら、個に応じた指導を充実させていく。	⇒ 個別最適な学びと協働的な学びを目指した授業を各教科で行い、その成果と課題を共有する。【1か月に1回】 授業の最初に前時の振り返りを行い、基礎的・基本的な内容の定着を行う。【毎時間】 「スタディサプリ」や「ドリルパーク」「小テスト」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復や習熟に取り組む。【単元ごとに実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと」「聞くこと」 数学「関数」「データの活用」 <指導上の課題> 生徒が発表する場面の設定が十分にされていないため、生徒が主体的に考え、自分の意見を表現する場面を増やしていく必要がある。	⇒ 学びの「じ・し・や・く」に基づく授業を各教科で行い、その成果と課題を共有する。【月に1度】 自ら立てた目標や課題の解決を目指した探究的な学びを各教科で行っていく。【単元ごとに実施】 指導と評価の一体化を図る中で、生徒同士の相互評価を取り入れる。【単元ごとに実施】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		① 結果分析(管理職・学年主任等) ② 詳細分析(学年・教科担当) ③ 分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について成果がみられた。引き続き、スタディサプリや小テストを活用して、基礎的・基本的な内容の反復や習熟に取り組む。 数学では、特に「数と式」の分野について大きな成果がみられた。一方で、「図形」の問題で「語句の意味を理解しているか」について課題がみられた。引き続き、繰り返し反復学習を行う、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るなどして、基礎的・基本的な内容の定着を行う。	
思考・判断・表現	国語では、「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する」問題に課題がみられた。文章の内容を精査し、生徒同士でも文章を評価し合うなどして自分の考えが分かりやすく伝わるような表現を追究させたい。 数学では、「数と式」、「関数」の分野で成果がみられたが、「データの活用」の分野の「確率」の問題で、「起こりやすさを数学的な表現を用いて説明すること」について課題がみられた。引き続き、「なぜそうなるのか」を大切に論理的思考力や表現力を高めていきたい。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	毎時間、協働的な学びを意識した授業を行っている。一方で、個別最適な学びについては課題がある。授業研究日や校内研修を活用し、成果と課題の共有と実践を継続していく必要がある。 既習事項の確認を反復して行った。また小テスト等を単元ごとに実施し、基礎的・基本的な内容の定着を図ったが、身につけている生徒とそうでない生徒の差がある。	変更なし
思考・判断・表現	B	学びのポイント「じ・し・や・く」について、特にクラウド活用では、Teams、Excelの共同編集等を活用して全体共有を効率化することができている。 探究的な学びについては、課題があるので、授業研究日や校内研修を活用し、成果と課題の共有と実践を継続していく必要がある。 協働的な学びの中で、生徒同士で相互に評価する場面を設定できた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)